

化学工学会 第 48 会秋季大会

シンポジウム<多分野に広がる機能性微粒子の最新開発動向 ～基礎から応用まで～ (材料・界面部会) > 報告書

オーガナイザー

通阪 栄一 (山口大学)

迫野 昌文 (富山大学)

新戸 浩幸 (福岡大学)

武井 孝行 (鹿児島大学)

本シンポジウムは招待講演 1 件、一般講演 13 件で構成され、秋季大会 1、2 日目に開催された。講演は大学 12 件、企業 1 件の内訳で、大学の比率が高かった。聴講者は、13 時からの展望講演では 30 名程度であり、シンポジウムをとおして 20~30 名程度であった。本シンポジウムでは「発表 12 分+討論 8 分」という討論重視の時間配分とした。討論 8 分間に活発な質疑が行われ、十分な討論を行うことができた。

発表内容は、機能性微粒子の基礎から応用まで幅広く、機能性微粒子関連分野における化学工学の役割や貢献を十分に認識できるものであった。展望講演では、様々な特性を有する N-Heteroacene 骨格を持つ新規機能性材料について講演頂いた。

以上